

普及活動情勢報告（平成27年12月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

ピーマン部会が現地検討会を行いました

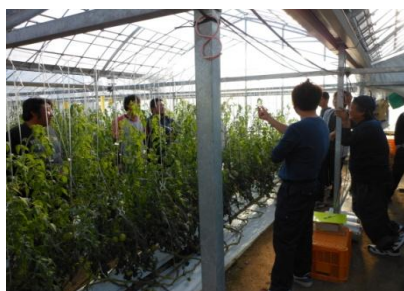


現地検討会の様子（左手前はクレオメ）

12月9日にJA南国市ピーマン部会が現地検討会を行いました。昨年度から品種を変更した農家が多いため、同一品種を栽培しているほ場を巡回し、栽培状況を確認しました。農家間では、肥培管理や日焼け果の発生具合など積極的に情報交換していました。また、炭酸ガス発生機を導入している農家のほ場も見学しました。農業改良普及課からは、炭酸ガス発生機や施用方法の説明、補助事業などの情報を提供しました。部長からは「若い者には取り組んでもらいたい」との言葉もありました。

農業改良普及課では、引き続き肥培管理等も含めた環境制御技術の導入を支援していきます。

トマト現地検討会の開催



現地検討の様子

12月1日、夜須町においてJA土佐香美フルーツトマト部会が現地検討会を開催し、部会員12名が参加しました。

草勢管理や、尻腐れ果の対策等について意見交換しました。農業普及課からは草勢管理の経過と定期的な薬剤ローテーションによる灰色かび病の防除を説明しました。

今年度から役員も若返り、部会活動も活発化しており、農業普及課では部会活動を支援していきたいと考えています。

出荷場にてGAP点検



作業場での状況確認

12月4日、JA土佐香美販売課と園芸部役員、農業改良普及課は、出荷物への異物混入防止を目的に、JA土佐香美の9出荷場においてGAPの取り組み状況を確認しました。平成22年度からGAP手法を活用した市場事故対策に取り組んでおり、作業員の帽子着用などが徹底されてきました。

出荷場ごとに整理整頓や作業環境の明るさ、温度等を点検した後、「鳥対策のネットなどが良い。」「資材がパレットなどの上にきちんと置かれている。」といった優れた点や気の付いた点などの意見を出し合いました。

農業改良普及課では、今後もJA土佐香美、園芸部と一体となって、GAPの取り組み状況を継続していきます。

J A土佐香美洋菜部会が研修会を開催



自らの営農実績と試算の違いは？

J A土佐香美洋菜部会は、11月25日から12月4日にかけて、管内6か所で青ねぎの研修会を開催し、生産者53戸が参加しました。

J Aからは病虫害防除や栽培管理のポイント、農業改良普及課からは、出荷量に応じた作付面積と栽培時期、調製にかかる作業時間とコストなど、規模に応じた作付シミュレーションと、営農計画の立て方を提案しました。

参加者からは、「面白い」、「売上1,000万円、年間250日出荷でやってみて」など関心を示す反面、「計画通りにはいかない」「調製コストの水準が厳しい」等の声も聞かれました。業改良普及課では、今後も青ねぎの周年安定生産に向け、組織活動を支援します。

県内のピーマン産地を視察



圃場での意見交換

11月27日、J A土佐香美ピーマン部会では県内のピーマン産地と担い手育成センターを視察し、部会員8名が参加しました。視察圃場では、整枝管理や環境制御技術等を中心に意見交換をおこないました。

参加者からは、「こまめな整枝管理が重要」、「光条件の良い上位節で収穫数を稼いでいくべき」といった声が聞かれました。

農業改良普及課では、1月に実施する現地検討会にて、環境制御技術の導入圃場の調査経過を報告する予定で、生育に合わせて栽培管理を見直すことで、ピーマンの増収・安定生産を支援していきます。

力強いシシトウ産地の育成 ～南国市3J A合同現地検討会の開催～



ほ場説明を聞く参加者

11月11日、南国市内3J Aのシシトウ部会が合同で現地検討会を開催しました。当日は、生産者、J A営農指導員17名が参加し、ほ場3か所を巡回しました。農業改良普及課は、視察ほ場の温度管理を調査し、樹勢の強弱による温度管理のポイントについて説明しました。

今回は、環境制御機器の導入農家や若手生産者が参加したことで、灌水回数や温度管理、整枝や病虫害防除など栽培管理面で活発に情報を交換していました。

農業改良普及課は、今後の新たな技術導入と併せてシシトウの収量向上に向けて取り組んでいきます。

菰生米研究会定例会



米の食べ比べを行う参加者

11月19日JA香北支所で菰生米研究会定例会を開催し、22名が参加して米の食べ比べを行いました。

比較した米は農業改良普及課で事前に栽培内容を聞き取り、タンパク質含有量等を分析した結果から、味がよいと思われた4点を選びました。

外観の艶や香り、粘りや味等について評価してもらいましたが、「難しい」、「香りがよい」など、悩みなながらも、タンパク質含有量や水分などのバランスが良い米に高い評価が集中しました。

次回の定例会では、食べ比べの結果と栽培内容を対比して、食味を向上させる方法として、施肥資材や施用量、施用時期等の方法について検討する計画です。

ニラ環境制御技術研修会を開催



炭酸ガス実証ほの管理状況を説明する普及指導員（左）

12月9日、JA土佐香美と農業改良普及課は、営農総合センターで、環境制御機器や装置を導入したニラ生産者を対象に研修会を開催し、10名が参加しました。農業改良普及課は、環境制御技術の基礎知識や炭酸ガス実証ほの結果等について情報を提供しました。炭酸ガスの施用方法と効果、かん水の間隔と量、葉先枯れ症状と要因等について活発な情報交換が行われました。

農業改良普及課では、事業導入農家に対して炭酸ガスの施用方法やかん水方法等について巡回指導し、収量アップを目指します。

環境制御技術「モデル農家」の飛躍的な増収を！ ～JA土佐香美ピーマン農家から～



樹勢や成長バランス状態をモデル農家に伝える普及指導員（左）

農業改良普及課は、環境制御技術導入加速化事業で、炭酸ガス発生機を導入したナス、ピーマン、シシトウなどの農家から、「モデル農家」を選定し、週1回生育調査と環境制御技術を指導しています。11月30日には、JA土佐香美管内のピーマン「モデル農家」を巡回し、生育調査の結果を説明しました。10月下旬から炭酸ガスを株元に局所施用していますが、「花が小さくても着果しており、着果が増えても心が伸び、花が咲く」と効果を実感していました。

農業改良普及課は、モデル農家の飛躍的な増収と地域の環境制御技術の普及に向けて支援します。

環境制御技術の確立・普及を！ ～南国市施設園芸環境制御技術研究会の活動から～



現地検討会で管理概要を説明する研究会会長

12月16日、南国市施設園芸環境制御技術研究会は、炭酸ガス施用等環境制御技術の習得を目的に現地検討会・講演会を開催しました。会員の他に環境制御技術に興味のある生産者14名が参加しました。農業改良普及課はJAと連携して会の運営や光合成特性について情報を提供しました。会長からは環境制御技術を実践した自らのシシトウのハウスで、「年内に2月の樹姿になった」、「昨年に比べて年内で約40%増収する見込みである」と述べました。また、これまでの管理を見直し「全体の出荷量の底上げにつなげたい」と意気込みを語っていました。

農業改良普及課は、同研究会の活動を支援し、環境制御技術の確立・普及に尽力します。